

近畿地方整備局
資料配布

配布日時	平成22年9月29日 14時00分
------	----------------------

件名	『関西のブランド力向上の取組』のモデル実施 ～23年度のテーマは「茶の文化」に決定～
----	---

概要	<p>文化の集積を活かし、関西各地の地域資源を特定のテーマによって広域的に連携させ、関西を文化首都圏として発展させる取組『関西のブランド力向上の取組』のモデル実施に当たってのテーマが、「関西のブランド力向上推進有識者委員会」（座長：橋爪紳也大阪府立大学特別教授）での審議等の結果、「茶の文化」に決定しました。</p> <p>◆今後の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月中下旬～ 「茶の文化」に関連した地域資源を活用した取組を行っている団体を関西各地から募集</li> <li>・12月上旬目途 上記有識者委員会による選定</li> <li>・23年度 これら取組の連携・情報発信・イベント実施等を通じ、『茶の文化』を担う関西を国内外へ発信する取組をモデル実施。</li> </ul>
----	---

取り扱い	—
------	---

配布場所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ
	神戸海運記者クラブ、神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ <small>かわの</small> 所属で資料が必要な方は、近畿地方整備局記者クラブ河野(06-6942-1141内線2811)にお問い合わせ願います。

問い合わせ先	<p>近畿地方整備局 近畿圏広域地方計画推進室<small>ほんむら</small> 建政部 計画管理課長 本村 龍平(6121) 課長補佐 矢田 孝代(6123) 電話 06-6942-1141 (代) 06-6942-1056 (直通)</p>
--------	--

# 「関西のブランド力向上に向けた取組」 モデル実施のテーマ選定について

平成22年9月29日  
近畿圏広域地方計画推進室

関西の特徴である文化の集積を活かし、関西各地の地域資源を特定のテーマによって広域的に連携させ、関西の文化首都圏への発展を目的とする取組である「関西のブランド力向上に向けた取組」については、平成23年度のモデル実施へ向けて、関係機関で構成される「関西のブランド力向上推進のための準備会」で検討を進めています（別紙1参照）。

このモデル実施に当たり、関西各地の地域資源を広域的に連携させる競争力ある統一テーマを一つ選定するため、「関西のブランド力向上推進のための準備会」において、「関西のブランド力向上推進有識者委員会」（別紙2参照）を平成22年9月2日に設置し、審議等をすすめてまいりました。

この結果、このたび、以下のとおりテーマが選定されました。

## ■選定テーマ 「茶の文化」 （別紙3参照）

今後は、10月中下旬を目途に、関西各地から、この「茶の文化」に関連した地域資源（別紙3「展開イメージ」に例示）の活用に関する取組の募集を開始し、12月上旬を目途に、上記有識者委員会による選定を行う予定です。

23年度には、これら取組の連携・情報発信・イベント実施等を通じて、関西が一丸となって「茶の文化」を重点的に国内外へ発信する取組のモデル実施を予定しています。

（参考）

モデル実施テーマ「茶の文化」選定理由

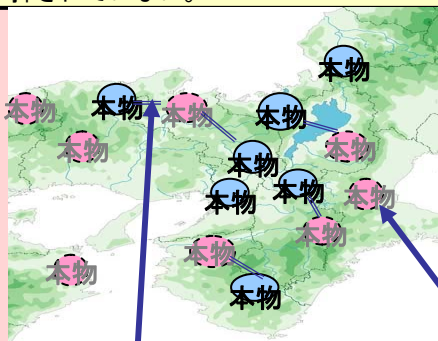
- ①物語性：各地の資源・取組を繋ぐことで、取組に「意味」や「物語」を提示できるもの  
→関西各地で生産される銘茶、さらに「茶の湯から生まれた文化」として、建築（茶室等）、伝統工芸（茶器）、食文化（茶菓子等）等を繋ぐことが可能。
- ②歴史性：関西において歴史的な由縁があるもの  
→茶の生産は宇治が発祥地とされている他、わび茶創始者村田珠光、「茶道」大成者千利休等、茶の湯文化及びそこから生まれた文化は、関西が起源
- ③優位性：質、永続性、種類、先進性等において日本や世界の中で関西が優れた点を持つもの  
→茶道や煎茶道の家元が居る等、茶の湯文化を継承している他にも、新たな“茶”菓子や和食等の開発も京都を中心に関西が先進的である。
- ④独創性：世界にも通用する独創性があるもの  
→茶の湯文化を起源とする日本の精神文化（「禅」の精神等）が、近年、海外において独自性等を高く評価されている。
- ⑤広域性：可能な限り関西全域の地域づくりの取組が参加できるもの  
→関西の各地において、茶葉の生産、茶器・茶筌づくり、茶菓子の開発等が行われている。また茶室・庭園、懐石料理等、関連する資源も幅広い地域に存在。
- ⑥訴求性：国内外から「関西ならではの」と納得させうるもの  
→茶の湯は関西が起源であり、文化面に着目した取組や資源に関して、他地域に優位性がある。話題性の創出という側面では、「茶の文化」は海外で評価されている「禅」の精神等にも結びつけることができることから、世界に通じるテーマである。

なお、モデル実施に当たっては、「茶の文化」をメインに据えながら関西の多様な本物を巻き込んだ形での実施を目指しています。

## 関西のブランド力向上の取組の考え方と目標

### <現状>

- 関西には、日本を代表する有形無形の「本物」の資源が集積。(例えば、国宝や重要文化財は、関西だけで全国の約半数を占める。)
- 多様で、かつ、広域にわたって存在するこれら高品質な地域資源を、地域づくりやものづくり等へ効果的に活用していくことにより、観光や産業の活性化等の成長が期待されることから、関西は成長への高いポテンシャルを有していると見込まれる。(例えば、「本物」活用の取組の一つである「水都大阪2009」は52日間で約190万人動員し、経済効果約67億円。)
- しかし、これら資源の活用や情報発信の取組については、地域ごと、分野ごとの縦割り・横割りとなっており、多様性、重層性、集積性を活かした相乗効果が十分に発揮されていない。



各地に「本物」といえる高品質の地域資源が点在するが、価値を十分知られていなかったり、地域内での取組に留まり十分な活用効果が発揮されていない等の状況。

### 関西における国宝・重要文化財

(H22.3.31現在 文化庁HP)

#### 関西にある「本物」の例

	関西	全国
国宝	596	1,079
重要文化財	5,967	12,709

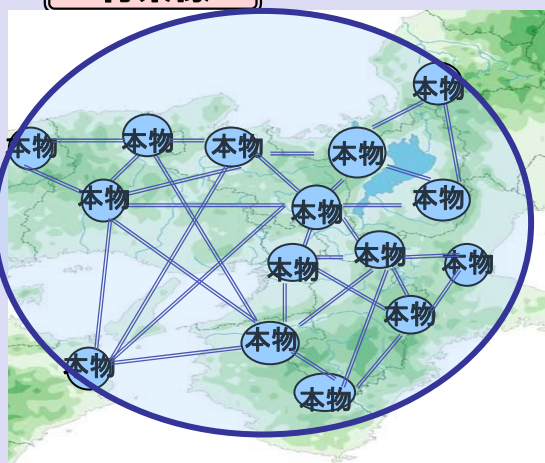


2006年ロボカップ世界大会優勝ロボット

地域内での取組に留まっている  
→ 広域で繋ぎ合せ、支援・発信

価値が知られていない資源  
→ 価値を向上し、発信する必要

### <将来像>



関西全域を見据えた戦略主体が、各地の「本物」候補を活用する地域の取組を応援

価値向上への支援

本物同士の連携斡旋

国内外への情報発信

競争力の高い共通のテーマで複数の地域の事業や活動がパッケージ化された一体的な取り組みをオール関西で支援



「競争力の高い関西共通のテーマ」

→ 海外諸国及び全国に対して関西の認知度・関心度の向上を強力に推進する主力コンテンツ

多様で特色ある地域資源を活用した圏域一丸の取組により、以下の効果が関西にもたらされ、わが国を牽引する文化首都圏が確立される。

- ①官民(企業・住民含む)が広域的に連携して地域づくりへ参加
- ②関西発の観光立国
- ③関西が優位性を持つ産業の需要増大・投資誘因

# 関西のブランド力向上の取組の実施に向けた今後の進め方

## 1. 関西のブランド力向上の取組についてモデル実施の予定

平成21年度「関西のブランド力向上に向けた検討会」において検討された取組を平成23年度以降、モデル的に実施することとし、平成22年度はその準備を行う。



## 2. モデル実施の体制

上記1の取組を推進するため、「関西のブランド力向上推進のための準備会」を近畿圏広域地方計画協議会幹事会に置く。構成員は、「関西のブランド力向上に関する検討会」の構成機関とする。

### ■ 体制イメージ図

近畿圏広域地方計画協議会

幹事会

### 関西のブランド力向上推進のための準備会

関西のブランド力向上の取組の本格実施へ向けた詳細検討  
その一環としてモデル実施

「関西のブランド力向上推進有識者委員会」を設置し、同委員会において、  
モデル実施のテーマの決定、関西各地の取組の選定等を行う

### 構成機関

< 府 県 > 福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、徳島県  
鳥取県

< 指定都市 > 京都市、大阪市、堺市、神戸市

< 経済団体等 > (社)関西経済連合会、大阪商工会議所、関西広域機構、(社)関西経済同友会  
京都商工会議所、堺商工会議所、神戸商工会議所

< 国の地方支分部局 > 農林水産省近畿農政局、経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿運輸局  
環境省近畿地方環境事務所、国土交通省近畿地方整備局

関西のブランド力向上推進有識者委員会委員名簿

かわうち	あつろう	夙川学院短期大学特任教授
河内	厚郎	
さかがみ	ひでひこ	京都嵯峨芸術大学教授
坂上	英彦	
せんだ	みのる	奈良県立図書情報館館長
千田	稔	
はしづめ	しんや	大阪府立大学特別教授
橋爪	紳也	
ほりい	よしたね	(財)大阪21世紀協会理事長
堀井	良殷	
むらた	しやうぞう	(株)アートコーポレーション専務取締役
村田	省三	

(五十音順・敬称略)

## ■後世に継承・活用・創造したい「本物」

「茶」～茶の文化

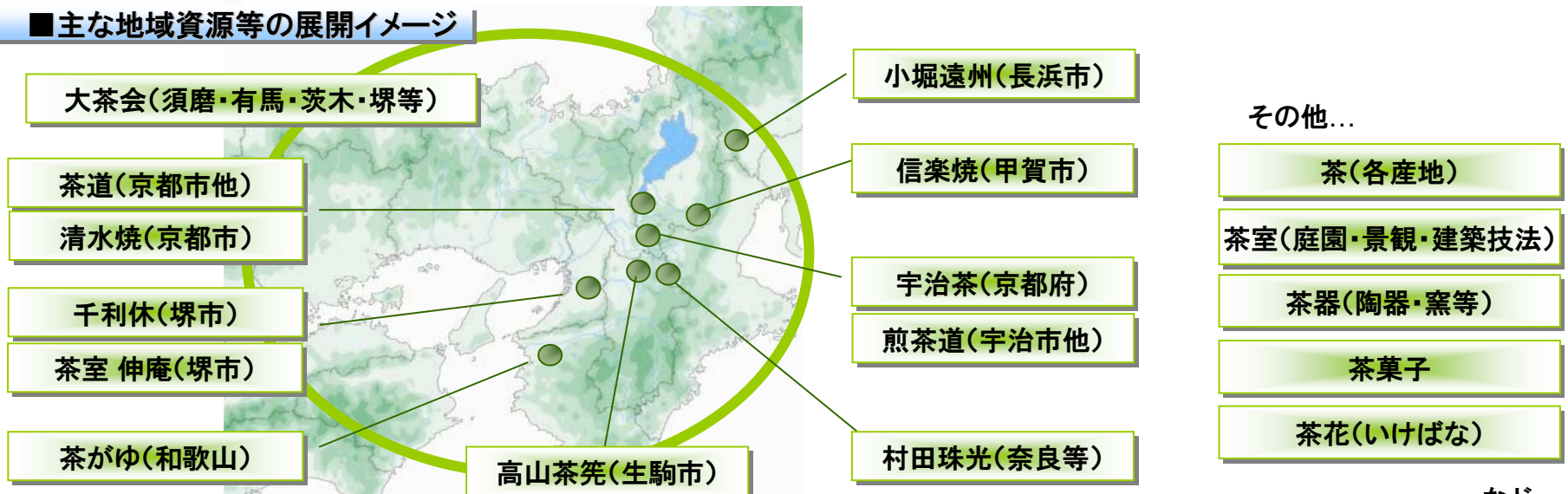
## ■「本物」が有する競争力の高いテーマ性

茶は日本国民にとって最も親しまれている食物の一つであり、古くからわが国の生活に深く根ざしている。また、茶を中心にわが国独特のたしなみや作法が蓄積され、茶室や庭園などの建物や空間をはじめ、茶器や茶菓子、茶花など多様な分野に大きな影響を与えつつ、「もてなし」の文化が形成されてきた。その茶の文化の中心がまさに関西であり、もてなしとともに、茶を取り巻く多様な技術・商品・サービスなどを後世に継承し国内外に発信する。

## ■「本物」を核にした取り組みのストーリー

- ①世界に誇る質の高い茶葉を生産し、②茶を生かした商品・サービスの開発・提供し、
- ③茶の文化を支える茶室、庭園などの建物・空間や、建築技法、茶器・茶菓子・茶花などの文化や技法を継承し、
- ④「茶の文化＝関西」を国内外に発信する

## ■主な地域資源等の展開イメージ



※ テーマに関連する地域資源を例示したものであり、実際に展開する取組は、今後募集するものです。